

連合福島第36回年次大会開かれる

福島の復興・創生に全力を尽くそう！

～すべての働く仲間とともに「必ずそばにいる存在」へ～

連合福島第36回年次大会は、10月27日福島市のホテル福島グリーンパレスにおいて、役員・代議員など約200名が出席し開催された。新型コロナウイルス感染防止の観点から入場前の検温・消毒などを徹底、ソーシャルディスタンス確保のためサブ会場を設けるなど工夫した。更に代議員からの質疑応答事前登録制により全体時間の短縮をはかった。

冒頭、澤田精一連合福島会長は『長期化するコロナ禍の中、この間の経験と知見を踏まえながら、私たち自身も変化に対応したコミュニケーションの多様化など、「新しい運動様式」に引き続き挑戦することとなる。すべての働く人にとって連合福島・労働組合が「必ずそばにいる存在」となるべく、次世代を担う若い世代の視点も取り入れながら、連合の旗のもとで皆さんとともに取り組める運動を模索していきたい。福島県は残念ながら、



挨拶する澤田精一会長

自然災害が頻発している。その意味では、自助・共助を目的とした組合の存在と運動は、益々重要性をまし、運動の充実と強化の必要性が高まっている。私たち連合福島は、誰一人取り残されることのない、「包摂」を理念に掲げ、「働くことを軸とする安心社会」の実現のため、自信をもって、力強く運動を進めなければならない』と挨拶した。



メイン会場の代議員の様子

その後、来賓の鈴木正晃福島県副知事、石上千博連合本部副事務局長、河西

直人福島労働局長、馬場雄基立憲民主党県連副代表、梅津政則国民民主党県連幹事長、狩野光昭社会民主党県連代表、高橋秀樹県民連合幹事長から祝辞が述べられた。一般活動報告については、JAM・深谷代議員からの発言があり、執行部としての受け止めを以て賛成多数で承認された。



来賓挨拶 連合本部 石上千博 副事務局長

また、議案審議に先立ち、新規加盟組合1組合が紹介され連合福島旗が授与された。第1号議案『2023年度運動方針補強(案)』には、事前エントリーにて自治労、電機連合及び伊達地区連合からの意見があり、執行部の見解を以て賛成多数で決定された。第2号議案『第20回統一地方選挙の基本方針について(案)』、第3号議案『2022年度剰余金処分(案)』及び2023年度各種会計予算(案)』、第4号議案『役員の補充選出について(案)』、第5号議案『連合福島「顧問・参与」の委嘱について』も賛成多数で決定された。



澤田会長のガンバロー三唱

最後に『すべての働く者のための労働運動を県内全域で力強く展開し、地域社会から共感・信頼される連合福島運動の実現に向け力をあわせ邁進していこう』とした大会宣言、並びに第20回統一地方選挙に勝利する特別決議が採択された後、澤田会長のガンバロー三唱をもって第36回年次大会を閉会した。